

# 紫波町図書館の概要 Library of the Year 2016



紫波町図書館の朝

**紫波町の位置**  
 東京駅から概ね3時間  
 岩手県のほぼ中央

人 33,500人  
 牛 1,865頭  
 食料自給率 170%

**公民連携がつくる**

**移ぐインフラ**



**図書館の概要**  
 開館 2012(平成24)年8月31日

**胡堂文庫が始まり、蔵書 9万3千冊**

◇紫波町図書館は、朝の空気を大切に。挨拶はコミュニケーションの基本。気持ちよくあいさつし、利用者も図書館も、穏やかな気持ちで一日をスタートする。快い空間では、言葉が素直に伝わり、理解を深めることができる。対面会話で気持ちも伝わる。スペースを満たしているのは、空気

だけではない。  
 ◇続日本紀に地名(遠山村、現在の紫波町赤沢地区)が出てくると言われる歴史の古い町。藤原氏、斯波氏、南部氏のそれぞれの時代の拠点であった。江戸期以降、近江商人等により発展、また北上川の舟運の駅として栄えた。

近江商人がもたらした南部藩で初めての清酒づくりの伝統は、今も四つの酒蔵に残されている。北上平野の北部に位置し、米作が中心であるが、果樹の栽培も盛んで、生食だけではなくワインの醸造も行われている。昼間人口は、83.4%とベッドタウン化しており、また農業者人口は減少しているものの、基盤は農業のまちと言える。

◇紫波町図書館の最大の特長は、新しい事業手法である公民連携(PPP:パブリックプライベートパートナーシップ)により実現したこと。これにより、一定の維持財源が確保(情報交流館運営費の考え方参照)できることで、建設可能となった。オガールプロジェクトでは、民間の刺激を受けて、公共サービスの価値の最大化を目指す。図書館はそのエンジンとなっている。2016年末には、オガールセンターが完成する。来年の4月には、民設民営の保育所が開所する。オガールプロジェクトの施設は、これで一応の完成を迎える。スタートはこれから。

**基盤は農業**

主な取組  
 H12～ 有機型まちづくり  
 H17～ 塩漬のまちづくり  
 H19～ 公民連携によるまちづくり

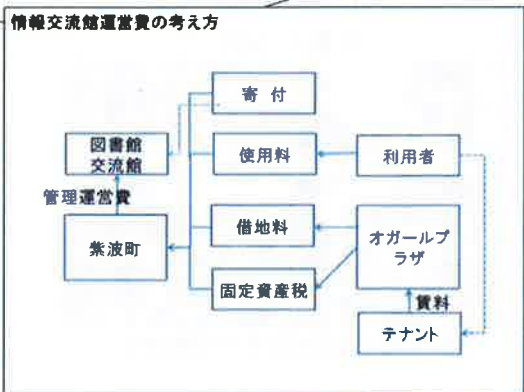
**オガールプロジェクト(紫波町公民連携基本計画)**  
 紫波中央駅前の未利用町有地の活用  
 (理念) 都市と農村の暮らしを愉しみ、環境や景観に配慮したまちづくりを実現する場。  
 (開発方針) 町中心部の賑わいが街全体へ波及し、中心部と各地域のつながりを重視した、持続的に発展する町を目指す。

オガールとは、成長を意味する方言「オガル」と駅を意味するフランス語「ガール」の造語。紫波中央駅前を「紫波の未来を創造する出発駅」とする決意と、このエリアを出発点として、紫波が持続的に成長していく願を込めた。



人の活力を表す【赤】、大地を表す【黄】、空・水を表す【青】、緑地を表す【緑】

PPP政策目的事業の実施で、官と民が何らかの役割を分担して行うこと。



◇約50年前、野村胡堂(『銭形平次捕物控』の著者)の寄付を受けて、中央公民館に図書室(胡堂文庫)を開設した。その後、幾度か本格的図書館の建設が計画されたが、社会・教育インフラの整備が優先されて建設できず、オガールプロジェクトの中でようやく実現できた。

貸出点数 252,161冊、入館者数 205,584人(情報交流館 36万人)、  
 人口 33,538人、貸出密度 7.51冊/人、延べ床面積 2,693.55㎡(図書館 1,573.83㎡、交流館 1,119.72㎡)





連携をつくる

◇図書館外の人々、団体、企業等と連携し、図書館利用者の増加と、オガールエリアの賑わい創出を図るため、次のような取り組みを行っている。

- 食育連携、紫波マルシェ(産直)と連携した「キッズ店長」
- 地ビール会社と連携し広場を使った「ビアフェスト」
- 大人向けの「夜のとしよかん」カフェと連携ミニトークイベント
- 調べる力は生きる力「図書館を使った調べる学習コンクール」
- 音楽スタジオの利用者と連携した「企画展示」と「コンサート」
- 紫波マルシェと連携した「料理レシピ本の展示と産直のポップ」「**こんびりカフェ**」...

図書館は知的好奇心を刺激する。

連携先を通じてその周辺に、図書館の情報が伝わる。人々とつながるとにより、図書館が施設の壁を越えて広がりを持つようになる。このようにして市民と図書館のかかわりを自然に形成し、図書館の利用を緩やかに促す基礎的な取り組み。



情報のつながりをつくる

◇つながりのある情報を、文脈的に提供することで、地域の価値を高める活動や、新しい価値が生まれる。情報が氾濫する現在だからこそ、必要なサービスである。

サービス実施の三つのポイントは、  
情報を編集して伝えること。  
展示物、見せ方にこだわること。

データ→情報→知識→知恵  
の循環から知のスパイラルへ。

可能な限りの資源を用いて、文脈・歴史・背景を伝えること。

そのために司書は、地域に出て、人々とつながりを持つようしている。

オガールプロジェクトでは、「優れたデザインは、まち(土地、空間)の価値を高める」との考えにより、「デザインガイドライン」が定められている。館内の表示は、オガールのコンセプトに基づき、内製により上質なデザインを目指す。

◇課題解決型からビジネス支援として「農業支援サービス」に取り組んでいる。農林課、町農林公社、JA、産直、農家、消費者を情報でつなぐ。関係した若手農家を中心に、「紫季のマルシェ」等オガール広場を使ったイベントが自発的に取り組まれている。「農業支援サービス」関連の取り組みは、次のとおり。

「農業関連本の棚」「農業専門データベース」「マルシェのポップ」「**こんびりカフェ**」「マルシェのキッズ店長」「ビアフェスト」「絵本の中のクッキング」「企画展示」「**子ども農業企画展示**」「夜のとしよかん、農業をテーマにしたトーク、肥料・農文協・地酒」「調べる学習がつかないビジネス支援第一号」



デザインガイドライン



若手農家のコラボ



まちをつくる(農業支援)

- 運営の三本柱
- ・児童サービス
  - ・地域資料
  - ・ビジネス支援

パティシエの経験のある参加者が作る**こんびりカフェ**のスイーツ



青大豆団子

子育て応援センター

サンセツコスモス

ハートじゃがいも



こんびりカフェ

夜のとしよかん



司書がつくる

◇司書が支えるコミュニケーションを大切にしている。司書が創り出す爽やかで心地よい空間は、ハードウェアを超えるものがある。ネット時代、高齢化社会であるからこそ、対面会話の重要性が増す。コミュニケーションは、オガールプロジェクトの一つの理念でもある。迷っている利用者には、積極的に声掛ける。図書館サービスを通じて、対面会話により、市民と心豊かに交流する。そのために司書は、司書の能力を高め、司書としてのプライドを持てるように、日々研鑽に努めている。

何かあったら図書館へ！

何がなくても図書館へ！

おでつてくなんせ！！



OGAL CENTRE

オガールセンター h28/12 オープン予定  
小児科、病児保育施設、企業事務所、スポーツジム、集合住宅、ヘアサロン、ベーカリー等



まちも人もオガール

